

## 公開討論会（新病院整備の必要性について）の結果及び市の考え方について

日 時：平成25年5月31日（金）10時～12時

会 場：野洲文化小劇場

参加者：約130名（内訳）一般市民等 約70名、発言者 12名

アドバイザー 1名、行政職員および事務局 約50人

### ★市の提案

市は、「耐震対策や設備更新などの問題で、先の見通しがたたない状況である野洲病院にかわり、市が責任を持って、市民の医療と健康を担う市立病院を野洲駅南口市有地に整備することが望ましい」と提案してきました。

この提案に対して昨年末の市議会特別委員会の採決では、賛成多数ではあったものの1/3を超える議員の反対があったため、検討を凍結し市民の皆さんのご理解を深める作業を進めてきました。

今回の討論会では、新病院整備の必要性そのものへの反対意見はありませんでしたが、市財政への影響や野洲駅南口での立地に対して、懸念や不安の声がありました。

主なご意見を要約し、以下のとおり論点を整理しました。

### ★参加者の主な意見

#### （賛成の意見）

- 普段は開業医で十分と思うが、今後の高齢化の進展を考えると、いざという時に後方支援を担う中核的医療機関（入院施設）が市内に必要である。
- 病院利用者としては、地域の安心安全のために市税を投入してでも新病院を整備してほしいと痛切に願っている。
- 現在人工透析を行っているが、病院がなくなったらどこまで透析を受けに行くことになるのか不安であり、近いところに病院がほしい。
- 建設場所は、良質な医師やスタッフの確保、病院利用者の利便性から野洲駅南口周辺市有地がベストである。
- 高齢者にとって、車に乗れなくなることを想定すると時間的、経済的に負担が増えるため、遠くの病院へ行くことが困難になるので、近くに安心できる病院がほしい。

#### （懸念や不安の意見）

- 人口5万人程度の野洲市が市民病院を持つことについては、財政面で過大な負担となる。
- 赤字経営の病院に私たちの税金が使われ、結果的に税金が増えることを心配する。
- 駅前に病院を持ってくると、救急車のサイレンがうるさく、小学校の学習の妨げになる。
- 駅前に病院ができると交通渋滞を悪化させる。

- 病人の静養のためには、野洲駅前ではなく静かで環境の良い郊外に病院を整備してほしい。
- 駅前に病院ができると、患者がパジャマ姿で散歩するなど、イメージ的に好ましくない。
- 高齢者にとって、立体駐車場は危険であるため、広く平面駐車場が確保できる郊外での整備が好ましい。

#### （その他の意見）

- 駅前の土地を民間から約 12 億円で購入したという経緯から、民間開発による 30～50 階の高層の複合施設（こども園、老人施設、病院など）を建設して、土地購入費用や公共施設の整備費用を稼いでほしい。
- 市が市民病院を野洲駅前に新設することについて、賛成か反対かの住民投票を実施してほしい。

## ★論点の整理

### 市財政の将来見通しについて

- ① 市財政の中長期見通しは、非常に厳しい状況であるが、その原因の一部は無理な投資や無駄な投資などの過去の財政運営にもある。市の地域医療サービスの重要性和現在の野洲病院への財政支援を総合的に考えると、新病院整備の政策上の優先度が高い。
- ② 仮に、財政状況が厳しいことを理由に病院整備をしないと判断するならば、その前に例えば博物館や温水プールなど近隣他市にないサービスと比較考量して判断する必要がある。
- ③ 新病院整備費用の約57億円については、制度上の借入金（企業債）により対応することとなるが、計画的な返済を行うので、実質的に新たな財政負担が生じるものではない。

### 新病院の健全経営について

- ① 専門家による収支シミュレーションを踏まえて検討しており、赤字経営を前提の提案を行っているものではない。
- ② 公立化により新たに見込める国の交付金と現在の野洲病院への補助金と同等の負担で、新病院を整備し運営できる見通しである。ただし、医療制度の変更や社会経済状況によっては、不測の事態が生じる恐れはある。それに対応する市財政の体力は必要である。
- ③ 医師等の確保については、過去2年間の検討経緯からの大学との協力関係、野洲病院の蓄積、立地予定地の利便性等から有利な条件は確保できると考えられる。
- ④ 多くの公立病院が赤字であるが、健全経営できている病院もある。シミュレーションを踏まえ透明、効率的な運営の仕組みをつくる。

### 立地場所について

- ① 野洲駅周辺は、既存の公共交通機関（路線バス・コミュニティバス・JRびわこ線）が利用できるため、市民が利用しやすく、医療スタッフの確保にも有利である。
- ② 新病院の立地場所は、アクセスの利便性から病院の稼働率確保ができ経営安定の観点から野洲駅南口周辺市有地とする。
- ③ 郊外に病院を立地した場合、近隣市の病院と競合することとなり、収支計画が成り立たない。

## ★懸念や不安の意見等に対する市の考え

### (懸念や不安の意見)

- 人口5万人程度の野洲市が市民病院を持つことについては、財政面で過大な負担となる。
  - ⇒ 人口5万人の野洲市には、新病院を整備・運営することは財政的に重荷である。  
学校の耐震化、子ども園整備、クリーンセンター整備などと同様に財政的に負荷がかかる。また、法人市民税の落ち込みと博物館や温水プールなど過大な投資やびわこ学園用地取得などの無理な投資を含めた過去のツケによる財政圧迫がある。  
しかし、市の地域医療サービスの重要性和現在の野洲病院への財政支援を総合的に考えると、新病院整備の政策上の優先度が高いと考える。
  
- 赤字経営の病院に私たちの税金が使われ、結果的に税金が増えることを心配する。
  - ⇒ 専門家による収支シミュレーションを踏まえて検討しており、赤字経営を前提の病院整備は行わない。
  - ⇒ 新病院整備費用の約57億円については、公営企業債による借入金で対応するが、病院事業会計の中で返済計画に基づき返済する自立型病院なので、実質的に新たな財政負担が生じるものではない。
  - ⇒ 公立化により新たに見込める国の交付金と現在の野洲病院への補助金相当額の財政負担で、新病院を整備し運営できる見通しである。
  
- 駅前に病院ができると交通渋滞を悪化させる。
  - ⇒ 交通渋滞の発生のおそれは、朝夕の通勤時間帯に想定されるが、病院利用者との時間的重複は少ない。
  - ⇒ 市民は駅前のにぎわいを期待されており、交通渋滞を来たすことが予想されるが、その解決には駅周辺を含む広域の範囲での道路網整備により抜本的な解決を図る必要があるため、交通渋滞を理由に駅前に新病院を整備しないという考え方は成立しない。
  
- 病人の静養のためには、野洲駅前でなく静かで環境の良い郊外に病院を整備してほしい。
  - ⇒ 新病院を郊外で立地する場合、市外周辺の病院と競合するなど、健全な経営が成り立たないと専門家の見解が出ており、赤字経営を前提とした郊外での病院整備は、考えていない。
  - ⇒ 新病院の機能は、一部に療養型病床も想定しているが、主には急性期医療であり、短期間での入院・治療・退院サイクルから、市民がアクセスしやすい野洲駅前に立地することが適している。

- 駅前に病院を持ってくると、救急車のサイレンがうるさく、小学校の学習の妨げになる。
- ⇒ 現在も野洲小学校の玄関前に野洲病院が立地されており、小学校の学習の妨げになるという苦情は聞いていない。
  
- 駅前に病院ができると、患者がパジャマ姿で散歩するなど、イメージ的に好ましくない。
- ⇒ 駅前を患者がパジャマ姿で歩くことはないと考える。また、イメージを損なう状況は想定されない。
  
- 高齢者にとって、立体駐車場は危険であるため、広く平面駐車場が確保できる郊外での整備が好ましい。
- ⇒ 安全で機能的な立体駐車場の整備は可能である。
- ⇒ 平面駐車場の場合、炎天下や荒天時の病院施設までの移動には、高齢者等に負担がかかる。
- ⇒ 野洲駅南口周辺市有地の高度利用のためには、立体駐車場が有利であり、他の公共施設との共有化が可能である。

#### (その他の意見)

- 駅前の土地を民間から約 12 億円で購入したという経緯から、民間開発による 30～50 階の高層の複合施設（こども園、老人施設、病院など）を建設して、土地購入費用や公共施設の整備費用を稼いでほしい。
- ⇒ 50階の高層ビルに複合的にこども園や病院などの公共施設を整備して、資産運用できるという提案は、ニーズと事業主体からも野洲駅前での実現性は乏しい。仮に成立するのであれば、既に他の自治体でも先進事例があると思われるが、情報はない。
  
- 市が市民病院を野洲駅前に新設することについて、賛成か反対かの住民投票を実施してほしい。
- ⇒ 約 2 年間にわたり全て公開で、市民・専門家または議会で、多くの議論を重ねてきていただき、その中で論点は絞られ、市民も専門家も「市財政の見通しと新病院の健全経営」が可能ならば、市が責任を持って病院整備することに賛同いただいていると考えている。市議会での最終的な審議による議会制民主主義の手続きにより決定する方が住民投票より有効である。